

# 「食農教育」体験活動から学ぶ

群馬県総合教育センター 産業科学グループ  
指導主事 川島 一秀

# 「食農教育」体験活動から学ぶ



群馬県総合教育センター 産業科学グループ  
指導主事 川島 一秀

## なぜ「食農教育」なのか？

「食農教育」と言われて何をイメージするだろうか？

「食」は食料や食文化。「農」は農業を意味する。「食農教育」とは生きていく上で必要な「食」と、その「食」を生産する「農」についての学習を体験を通して五感でとらえ、知識や技術だけでなく、勤労・奉仕体験、自然との触れ合いなどを一体的に学習できる教育活動である。

農耕文化が興って以来、農業は人々に食料を供給する主要な方法となり、それが人類の発展をもたらした。人が活動するには食料が不可欠であり、しかも、“安全”で、“安価”に手に入り、“安定”して供給されなければならない。

私たちは依然として大量生産・大量消費という物質文明社会の真っただ中にいる。近年、環境に配慮するようになったとはいえ、生産と消費が切り離され、生産する場が見えない、生産される過程を知ることができない消費社会となってしまった。

消費することは受動的で快楽を伴うものであるが、生産は科学的な知識や技術、人間の肉体的・精神的労働が必要であり、高度な集中と忍耐、創造性が必要である。汗を流し、時には疲労と苦痛を伴うこともある。それだけに生産活動には喜びもある。多くの人々が生産のために、人生の一定の時間を費やし、今日の人間社会を創り上げてきた。生産活動について学習することは、人間としての発達（人間形成）、人間生活の創造、人間社会の健全な発展のために必要不可欠であり、現代の子供たちに欠けている今日的な教育課題でもある。

## 1 食育との連携

2003年度は、“食育”に初めて国家予算がついた日本食育元年でもある（注：農林水産省関係予算。「食育」活動の総合的な展開で79億円。国民一人一人が食の安全と安心について自ら考えるための全国及び地域段階の「食育」活動の重層的な推進、食の生産現場との交流等を通じた子どものころからの食に対する関心を醸成するための取組等を推進）。「食育」という言葉は、明治後期ころまで広く知られており、食・体・知・才・徳の五育があり、食育はその基本であった。現在の「食育」は、子どもの頃から身体にいい食べ物を選ぶ目を育て、「食」の大切さを学び、好ましい食習慣と豊かなこころを身に付ける教育と言われている。最近の食生活は、健康・栄養についての適切な情報の不足、食習慣の乱れ、食料の海外依存、食料資源

の浪費、栄養バランスの偏り、生活習慣病の増加、食料自給率の低下、食料資源の浪費といった問題が生じている。これらの諸問題を解決し、健全な食生活を実現するために、2000年3月に文部科学省、厚生労働省、農林水産省が共同で「食生活指針」を策定した。「食」は、農林水産業の領域、健康や家庭の領域、教育の領域のすべてにまたがる非常に広い範囲となってしまう。そのため、とても重要な問題であるにもかかわらず、従来学校教育で系統的に取り上げられなかった。食料を生産する「農」と「食」の領域を総合的に学ぶ「食農教育」では、「食育」との連携も視野に入れて学習を進める必要がある。

## 2 「食農教育」がもたらす教育的な効果

### (1) 学習指導要領のねらい

学習指導要領の基本的なねらいは、「生きる力」の育成である。この「生きる力」は、2003年10月に出された初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（答申）において、図1のように図解されている（[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/f\\_03100701.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/f_03100701.htm)）。以下に、「食農教育」生きる力の3つの観点でどのような教育的な効果があるのかを検討したい。

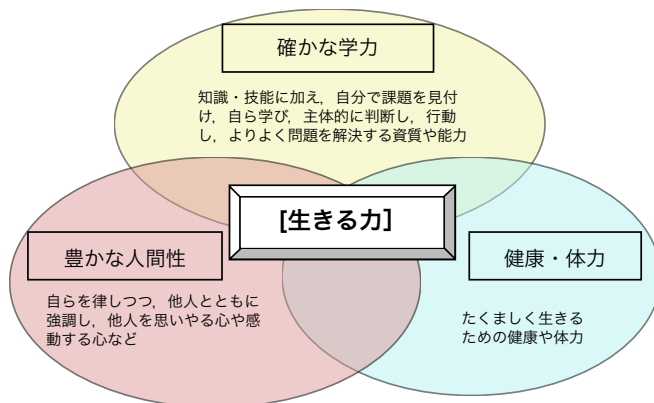


図1 生きる力の概念図

### (2) 豊かな人間性の育成

「食農教育」を行う場合、栽培でポイントとなる管理作業を作物の生育にとって適した時期に行わなければならない。それは、時として児童生徒に労働を強要する場面をつくることもある。乗り越えなければならない場面で、逃げることなく互いに協力しあって作業を行うことで、問題解決のために協調して事に当たらなければならないという心が芽生える。農業にはこの「思いのままにならない」体験をする場面が多い。どんなに完璧に手入れをしても、たった1回台風が通っただけですべてが水の泡になることもある。自然の圧倒的な力の前では人間など小さな存在でしかないことを思い知らされることもある。それでも、自然と共生する知識や技術を身に付けて、しなやかに生きていく。これが人の成長にはとても大切であり、豊かな人間性を育むことになると確信している。

### (3) 「食」に対する視野の広がり（健康・体力）

自分が栽培した野菜などを収穫する時の感動。そして、それを自分で食べることのできる喜び。普段何気なく口にしている食料が単にスーパーで売られている「モノ」ではなく、人が生産

しているのだと気づくことは、自らの食生活を振り返るきっかけになる。また、同じ野菜なのに値段が違うものがある時、「なぜ違うのか？」を考えるようになる。生産の過程を体験したからこそ、生産物を見る視野が広がり、食料を選ぶ目を育て、その安全や自分の健康について考えられるようになる。「健康・体力」を考える場面においても、頭で学んだ知識は、体験を通して身に付けたものに遠く及ばない。

#### (4) 各教科との連携（確かな学力）

学習指導要領の中から「食農教育」と関連する主な内容を図2にまとめた。各教科の学習内容から見ると「食農教育」と関連づけて学習できる領域はかなり限定される。栽培や動物の飼育を内容として明示している教科は、小学校の生活科と中学校の技術・家庭科だけである。動植物との関連で理科、農耕文化や第1次産業としての「農業」との関連で社会科で取り上げられているにすぎず、「総合的な学習の時間」において「食農教育」と各教科との連携を図る場合、内容がかなり限定されてしまう。しかし、畜産業が盛んな地域で、「畜産」を素材に学習を進めれば、3・4年の社会科で「地域の人々の生産・・・」等と関連できるし、5年生の社会科では米国産牛のBSE発生の問題と「食料が外国から輸入・・・」と関連づけられる。家畜の糞尿処理から、環境を考える場面を作れるし、鶏のふ化の実験と中学校理科の“発生”の単元と関連させることもできる。

#### (5) 教育効果を高めるために

「食農教育」に取り組むにあたっては、指導者自身が植物の栽培や食品の加工、農業と環境に関する知識や技能をもたなければならない。これらのスキルをもつことによって、「ねらい→方法・内容→実施→評価」の見通しをもつことができる。「一緒に考えよう！」という姿勢を児童生徒に示すことは必要である。しかし、その先がどうなるのかの見通しやこうしたいという思いなしに指導していたのでは学習にならない。

### 4 学校の経営 No.36 「食農教育」体験活動から学ぶ

#### <幼稚園>

- ・季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- ・自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付く。いたわったり、大切にしたりする。

#### <小学校>

- 社会
- 〔第3学年及び第4学年〕
  - ・地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。
  - ・地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり
  - 〔第5学年〕
  - ・様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。
  - ・我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特徴など
  - ・食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の動き

#### 理科

- 〔第3学年〕
- ・身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくり及び昆虫と植物のかかわりについての考えをもつようにする。
- 〔第4学年〕
- ・身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と季節とのかかわりについての考えをもつようにする。

#### 理科（続き）

- 〔第5学年〕
- ・植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長などをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生命の連続性についての見方や考え方を養う。
- 〔第6学年〕
- ・動物や植物の生活を観察し、生物の養分のとりを調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつようにする。

#### 生活

- ・動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもって生きていることや成長していることに気付く、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

#### 家庭

- ・日常の食事に興味をもって、調和のよい食事のとり方が分かるようにする。

#### 道徳

- ・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
- ・生きていることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。

#### <中学校>

- 社会
- ・人類が出現し、やがて世界の古代文明が生まれたこと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる。

#### 理科

- ・生物の観察
- ・植物の体のつくりと働き
- ・植物の仲間
- ・動物の生活と種類
- ・動物の仲間
- ・生物と細胞
- ・生物の殖え方
- ・自然と人間
- ・自然と環境

#### 技術・家庭

- 〔技術分野〕
- ・作物の種類とその生育過程及び栽培に適する環境条件を知ること。
  - ・栽培する作物に即した計画を立て、作物の栽培ができること。

#### 〔家庭分野〕

- ・生活の中で食事が果たす役割や、健康と食事とのかかわりについて知ること。
- ・栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養の特徴について考えること。
- ・食品の栄養的特徴を知り、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考えること。

#### 道徳

- ・自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。
- ・生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。

図2 食農教育と関連のある教科・科目の内容

### 3 「食農教育」体験活動の概要

平成15年度エキスパート研修講座「ポイントはこちら！食べる！育てる！「食農教育」体験活動」は、勢多農林高等学校と同校の上泉農場を会場に5回実施した。日程及び内容、栽培した作物については、図3の通りである。

受講方法は、次の4つのパターンがある。

- ・シーズンコース……第1回～5回の5日間を受講する（15名）
- ・スプリングコース……第1回～3回の3日間を受講する（1名）
- ・オータムコース……第4回～5回の2日間を受講する（3名）
- ・アラカルトコース……各回の午後のみ受講する（7名、13名、20名、17名、7名）

受講対象を2年目以降の教職員と設定したため、幼稚園以外のすべての校種から受講があった。主な受講者は小学校の教諭であったが、実習助手や事務職員もいた。定員を20名と考えていたが、予想を上回る希望者数であったため、第3回及び4回の午後のプログラムは2会場で実施した。

アラカルトコース以外の受講者には、上泉農場内に実習用の畑を用意して貸与した。自主研修という形であるが、継続的な栽培管理の実習を各受講者自身で行った。

ニーズにしっかりとこたえた内容であったので、十分に満足してもらうことができた。後日、センター内に研修報告を掲示した。その第1回と第5回の受講者の声（受講後の感想）を紹介する（資料図3資料②）。

回 月 日	午前のプログラム (上泉農場)	午後のプログラム (勢多農林高校)	栽培した 作物
1 5月21日	・開講式(勢多農) ・春まき野菜定植	・春まき草花の種まきと管理	トウモロコシ トマト キュウリ ナス インゲン ピーマン シシトウ エダマメ サツマイモ 他
2 6月26日	・春まき野菜栽培管理のポイント	・フラワーデザインの基礎技術 ・ガーデニングの基礎技術	キャベツ ハクサイ ブロッコリー カリフラワー ダイコン カブ ハウレンソウ 他
3 7月24日	・野菜の収穫とその後の畑の管理 ・試食と情報交換	・牛乳を使った加工品の作り方(バター・ヨーグルト/アイスクリーム)	他
4 8月27日	・秋まき野菜の種まきと定植 ・その後の管理	・小麦粉とソバ粉を使った郷土食(そば切り/田舎まんじゅう)	他
5 11月26日	・秋まき野菜収穫とその後の管理 ・試食と情報交換	・「ダイズ」とコンニャクを使った加工品(豆腐/コンニャク) ・閉講式	他

## 受講者の声と講座の様子



- 生活科で野菜づくりをするので、植え付けの仕方等大変参考になりました。デルモンテの方からトマトの情報等得ることができ良かったと思います。
- 学校でサツマイモやミニトマトを育てたり、花の種をまいたり、移植したりしたことはありましたが、いつも詳しい先生に教えてもらいながらでした。今日の研修で、今までやったことがないことを体験できましたし、なぜそうするのかなどもよくわかりました。フレンドリーファームに行けるかどうか心配ですが、元気に育って収穫したいです。ありがとうございました。
- 普段あまり植物(育てること含む)に興味はなかったが、おもしろいと思った。学校での園芸活動にもいかしていけたらと思う。とにかく普段できない体験ができて良かった。
- 春まき野菜をまいた後の研修だったので、時期的にもう少し早い方がありがたいです。大変お世話になりました。
- すぐに学校で生かせる体験であった。知らないことが多く、勉強になった。学校でも実践してみたいという気持ちです。ありがとうございました。次回も参加したかったです。
- はシーズンコースの受講者、●はアラカルトコースの受講者の感想です。

○こんな楽しく気持ちの良いセンター研修は初めてです!!何ととっても場所がいい(午前中は農園、午後はすてきな教室で)。農業高校いいところですね。講師の先生も穏やかで、親切でうれしかったです。小三の総合で食農関係のテーマをやる予定なので、この講座を希望したのですが、何よりいい土に触れることができ、自分自身の気持ちの洗濯ができたと思います。今後も農園が楽しみ!大変お世話になりました。お土産もたくさんありがとうございました。

高校生がうんと気持ち良くあいさつしてくれてうれしかったです。いい子たちですね。

○いろいろな教材を用意していただきありがとうございました。また、勢多農林高等学校の様子も見せていただき、大変勉強になりました。このように整った施設、熱心な先生のもと学べる子供たちは幸せだなと思いました。

○野菜づくり、マルチングの方法など、細かい技術的な面も分かって良かった。草花の種まき実習ができて良かった。花の咲くのが楽しみです。

○研修を受講できて良かったと思います。技術的、知識的なこと以上に大切なものが学べたように思います。残り4回がおわった時が楽しみです。



食農報告 2003 - 3

資料1 エキスパート研修講座第1回報告(受講者の感想)

## 受講者の声

- こんにゃくや豆腐の作り方を始めて知りました。自分で作ったということにとっても感動しました。この感動を子供たちにもぜひ味あわせてあげたいと思います。学校に帰って役に立てたいと思います。ありがとうございます。
- 5回の講座の中で今回は一番楽しみにしていた講座であった。実際に、本などでとうふの作り方やこんにゃくの作り方は目にするが、授業でするには大変不安があったからだ。今回実際にとうふ、こんにゃくの作り方を体験し、次回に実際に授業で生かせたらと思う。ダイズ作りからとうふ作りをやっていたらと思う。
- 5回の講座どれも内容が濃く、勢多農の先生方には感謝でいっぱいです。本当にお世話になりました。今回レポートを持ってくるつもりだったのですが、間に合わず…メールで送りますね。ご返信には今後の教育活動にぜひ生かしていくつもりです。ありがとうございます。
- 5回という長い研修でしたが、技術、意欲、農作物…、いろいろなものを持ち帰ることができました。高校の取り組み、他校の取り組みもとても参考になりました。育てていきたいもの“子供の心”があるかぎり、さまざまなことを試みたいと思います。研修で多くのことを教えていただきました。ありがとうございます。
- 改めて勢多農林高校の素晴らしさを実感し、ここで学べたことをありがたく思っています。今後の教育活動の中で、子供たちに還元していけるように頑張りたいと思います。
- 最終日、今日でこの講座も終了です。今まで、大変お世話になりました。栽培は苦手で、実生活でも学校でもかかわることが少なかったのですが、逆にそのために今回の講座が新鮮で、新しい発見や気づきもたくさんありました。本当にありがとうございます。
- とても役に立つ講座でした。実際にやってみるということは、本当に理解に結びつくのだと実感しました。今日のとうふ、コンニャクづくりは、これからの学習にちょうど使えるので、こんな喜びはありません。自分の手で生み出す喜び、変化する食品への驚きを身をもって体感しました。このような講座をこれからもぜひ続けて欲しいと思います。勢多農林高校の先生方には至れり尽くせりのご指導で本当にお世話になりました。2年続けて受講できると嬉しいです。本当にありがとうございます。
- 食品は作り上げるまでいくつかの工程を経て食べられるようになることが分かり、子どもに指導したい。
- 実践的に学ぶことができたことか最大の収穫になりました。次年度もぜひこのような企画をお願いします。
- 全く個人的な好奇心からこの研修に申し込みました。初めてのことばかりでしたが、色々なものを家でも育ててみて、「難しいんだなあ、農家の人はすごいなあ」と実感しました。もう少し自分でも色々挑戦してみて分からないことがたくさん出てきたら、またこういう講座に申し込んでみたいと思います。私も、農業高校で三年間くらい勉強したいと思います。5回も本当にありがとうございます。
- 半年間（5回）お世話になりました。食農教育、これからの時代大切なことだと思います。食農教育、食育教育を生徒や地域の人々と一体となって取り組んでいきたいと考えています。そうすることが重要になってきていると思います。今回の研修に参加しながら、学校の農園で生徒たちと野菜づくり、ベランダでは花を育てて、校内に置きました。研修で学んだことをできるだけ多くの生徒達に伝えていきたいです。これからの農業高校の在り方、長く考えておりますが、まだはっきりと見えてきていません。いろいろな食・農に関する講座、研修に参加していますが、生徒を中心に教育されている農業高校のカリキュラム、方針は素晴らしいものを感じました。農業高校に勤めている私にとって、学ぶものはとても多かったです。ありがとうございます。
- お世話になりました。土に触れ植物を育てるというのは人間にとって欠かせない大切なことなので改めて思いました。私にできる形で、子どもたちに合ったように、こういう経験をさせていきたいと思います。この研修に来ると、何となく安らいだ気持ちになります。ありがとうございます。
- 5回にわたり、大変参考になる研修が多く、有意義であった。この研修がさらに発展することを祈念しております。
- 午前、午後とも大変参考になりました。今回研修させていただいた内容を、児童への指導へとフィードバックできるよう努力し、研究していきたいと思ひます。材料、用具等を準備していただきありがとうございます。来年はぜひ5回参加してみたいです。
- 講座で学習したことを、子どもたちにどう還元するかという話し合いも必要かと思ひます。
- ※講座担当者もいろいろと勉強になりました。来年度も同様の講座を開催するのですが、今年の課題等を十分検討し、充実した研修にしていきたいと思ひます。



食農報告 2003-11

資料2 エキスパート研修講座第2回報告（受講者の感想）

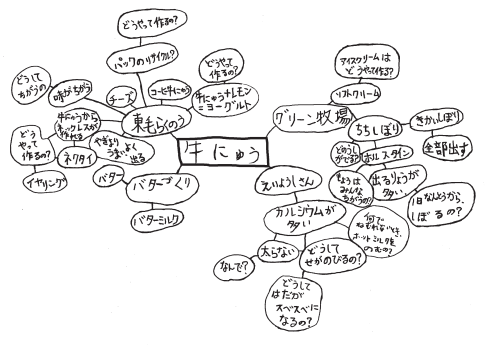
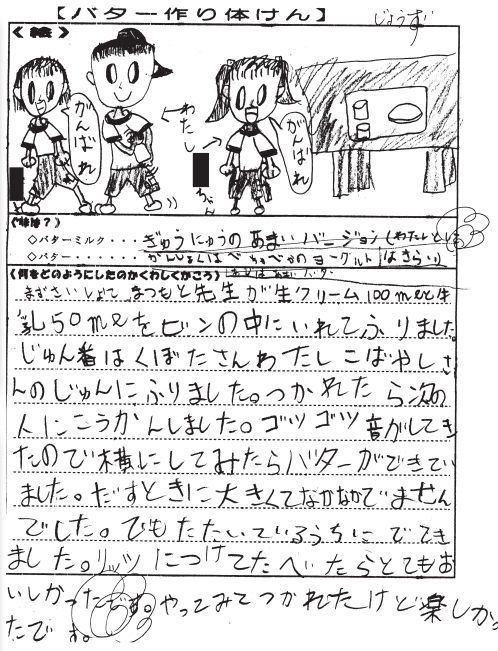
## 受講者の実践報告

最終回（11月26日）の午前中は、勢多農林高等学校松本校長、梅沢農場長、講師の各先生方を交え、情報交換会を実施した。勢多農林高校の取組が紹介されたり、今までの内容の質問が出されたり、各学校での実践内容の紹介があった。以下に新田町立木崎小学校と玉村町立南小学校の取り組みを紹介したい。

### (1) 新田町立木崎小学校の実践（松本ひろ子教諭）

本校の3年生は総合的な学習のテーマを「私たちの暮らしと食べ物」にして取り組んでいる。今まで、2年生の生活科で畑で野菜作りをしたり、パン屋さんに教えていただきパン作りをしたりしてきた。3年の理科では、植物の学習、社会科では野菜の学習もある。それらと関連づけながら、「ふれる」過程を考えた。

まず、一番身近な給食を選んだ。給食の疑問を出し合い、給食センターや東毛酪農業協同組合を見学し、栄養士さんの話を聞き、疑問を解決してきた。また、牧場や野菜のビニールハウスに行って、牛の乳搾りを体験したり、野菜の育つ様子を見たり話を聞いたりしてきた。さらに、身近な食材を使って、食品加工の体験をしてきた。そして、その中で追求したい課題をそれぞれ決めて、追求（課題解決）、まとめ、発表と計画を立てている。



資料3 (左上) 授業の様子  
(左下) 牛乳についてのウェブマップ  
(右) バター作り体験の記録



総合教育センターの「食農研修」の実習では、3年生の子供たちの総合的な学習に生かせるものとして、バター作り（資料3）と田舎まんじゅう作りを選び実践した。牛乳と生クリームをビンに入れて一生懸命にふっていると、あるときゴツンゴツンとした固まりができること、なめてみるとまさしくバター、それも牛乳の香りのするおいしいバターになることなど、全てが新しい経験であった。作ること、食べることの大切さや奥深さを改めて考えさせられた。

## (2) 玉村町立南小学校の実践（藤井清子教諭・関口信子教諭）

同小3年の「総合的な学習の時間」で学習したトマトの内容について紹介した。成果を「トマトまるごとスタディ」にまとめ、KAGOME 第11回全国小中学生「食の冒険グランプリ」の「トマトの苗を育てよう！グループ活動部門」に応募し、グランプリを受賞した（「食の冒険グランプリ」は全国小学校家庭科教育研究会並びに全日本中学校技術・家庭科研究会が推薦）。

南小がグランプリを受賞した理由なども以下の Web ページに掲載されている。「トマトの苗を育てよう！グループ活動部門」以外の部門には、「トマトでおいしく！クッキング部門」、「「食べること」を考える！グループ研究部門」など総合的な学習の時間や技術・家庭科で参考となるページも掲載されている（<http://www.kagome.co.jp/bo-ken/index.html>）。



図4 玉村町立南小学校の活動を紹介している Web ページ

## 「食農教育」分野で農業高校が果たす役割

県内の農業高校では以前から幼稚園や小・中学校、特別支援諸学校と連携したり、県民対象の開放講座を実施したり、市民農園として学校農場を開放したり、新鮮な農産物を提供したりなど、地域に開かれ、貢献している地域密着型の教育を実施している。

本年度より新教育課程の実施によって、「グリーンライフ」や「<sup>せいぶつかつよう</sup>生物活用」等、主としてヒューマンサービスに関連する分野に属する科目が導入された。「グリーンライフ」では、農

業体験の援助や応接、農村景観の活用や市民農園の運営等を学習するので、外部との「連携」そのものが、授業で学んだ内容の実践の場として生かすことが可能となった。実際に交流を実施すると、高校生自身も学習内容の理解が深まり、指導力が向上して自信につながっている。ある高校では、幼稚園で実際にイモ掘り体験をした生徒が入学し、今度は教える立場になって一生懸命指導しているという事例もある。

本年度県内の農業高校で実施している連携の内容を図5、図6にまとめた。今までは幼稚園や小学校「生活科」等との連携が多かったが、小学校「総合的な学習の時間」との連携が行われつつある。農業高校との連携は大きな可能性を秘めており、連携が構築できれば、双方の教育効果はさらに高まる。連携のポイントは、“双方が互いにできることを努力する”ことである。どちらかに「やってもらう」とか「してやる」という気持ちが芽生えた時に、連携は成り立たなくなってしまう。

農業高校には、本来の業務に支障のない範囲で、「食農教育」や「総合的な学習の時間」の拠点校として「食・

学校名	学校との連携内容	他団体との連携備考
勢多農林高等学校	市立大室小学校(116人、年2回) 大室公園にサルビア定植 運動会に飾るプランターづくり 市立元総社南小学校(35人、年4回) 花壇づくり パンジーのプランターづくり 市立中央小学校(40人、年2回) 中央商店街の花壇づくり 県立盲学校(8人、年2回) 各種野菜のは種 カキ収穫と動物触れ合い介助 県立前橋高等養護学校(8人、年1回) 農作業技術指導	市立前橋城東小学校(親子7組(17人)、年4回) 草花・野菜の栽培 フラワーデザイン 老人ホーム(16人、年14回) 草花や野菜管理の園芸活動 干し柿づくり
伊勢崎興陽高等学校	市立南幼稚園(70人、年5~6回) ジャガイモ・サツマイモ栽培 ダイコン収穫 私立二ノ宮保育園(70人、年5~6回) ジャガイモ・サツマイモ栽培 ダイコン収穫 私立さやか保育園(30人、年1回) サツマイモ掘り	昨年度 市立北小学校(60人、年2回) ジャガイモ栽培
利根実業高等学校	幼稚園(20人、年1回) サツマイモの収穫(農業体験農園) 幼稚園(10人、年1回) 調理指導 農業交流学習(15人、年2回) 養護学校の生徒へ草花の鉢あげや プランターづくりの指導 出前授業(20人、年1回) 中学「理科」の発生の単元で、生徒が鶏のふ化について授業を行う	特になし
藤岡北高等学校	本年度実施していない	昨年度まで 地域小学校2校と定期的に生徒主体の出前授業を実施していた

図5 農業高校における連携(その1)

農のもつ教育力を」地域や学校へ最大限還元するという姿勢を示してほしい。また、各幼稚園や学校の方々には、「食農教育」についての疑問をぜひ近隣の農業高校やセンターに向けていただきたい。農業高校は「食農教育」に関して、まさしく人材の宝庫である。ぜひ連携をはかり、互いに発展したい。

## 「食農教育」充実のポイント

前述の答申のなかで「総合的な学習の時間」の一層の充実が叫ばれている。従来の知識伝達型の指導法のままでは、「総合的な学習の時間」を十分に指導できない。「食農教育」に関し

て言えば、充実のキーポイントは次の2点である。

- ①栽培や加工のスキルをもっている職員が担当する。
- ②農業に関するエキスパートを外部講師として確保する。

前者は必要不可欠の条件である。いくら優秀な外部講師を確保できたとしても、担当者本人にスキルがなければ、連絡調整すら満足にできない。後者は十分条件であり、万が一確保できなかったとしても効果が上がらない訳ではない。エキスパートを得られれば、スキルをもった担当者にとって最大の協力者となる。

## おわりに

本県の「食農教育」研修講座は始まったばかりであり、当面は「食農教育」に関するスキルを身に付けた教員を増やすことに重点を置く必要がある。そのため、来年度の「食農教育」関係の講座は県下3会場で開催する予定である。

また、「食農教育」に関するWebページを開設して、「総合的な学習の時間」における実践に参考となる情報を発信していきたい。問い合わせは、川島(kazuhide-kawashima@staff.gsn.ed.jp)までメールにてお願いしたい。

学校名	学校との連携内容	他団体との連携備考
富岡実業高等学校	幼稚園との連携(60人、年4回) イチゴ狩り サツマイモの定植 コスモス畑づくり(は種) サツマイモのと収穫と焼きいも 小学校との連携(60人、年5回) 草花鉢あげ体験(小学2年生) サツマイモの定植 コスモス畑づくり(は種) サツマイモのと収穫と焼きいも	昨年度まで 小学校・中学校 教職経験者研修 2(体験研修) :園芸コース、 食品コース選択 による体験活動 (西部教育事務 所主管)
安中実業高等学校	私立佐藤幼稚園(70人、年5回) ジャガイモ・サツマイモ栽培 私立みどり幼稚園(100人、年2回) サツマイモ栽培 高崎健大付属幼稚園(150人、年4回) ジャガイモ・サツマイモ栽培 市立原市保育所(100人、年1回) サツマイモ掘り 町立甘楽幼稚園(100人、年1回) サツマイモ掘り 市立東横野小学校(100人、年4回) 田植えと稲刈り(小2年生) サツマイモ栽培(小2年生)	秋間地区子供週 5日制事業 幼稚園、小学校 各50人計7回 サツマイモの栽 培・焼きいも大 会(秋間公民館 主催)
中之条高等学校	平成15・16年度みんなの専門高校プロジェクト推進事業指定校 小学生による草花苗の鉢あげ実習 野菜栽培(小学校5年生) リンゴ栽培(小学校2年生) 草花栽培 測量・環境調査等	中之条町花の会 と合同で町内の 花壇整備と飾花 作業
大泉高等学校	ふれあい農園(幼稚園90人、年5回) トウモロコシ・エダマメ栽培 サツマイモ栽培 イモ掘り体験(幼稚園・保育園・学 童保育等、のべ約800人) ジャガイモ・サツマイモ掘り 交流学習(養護学校28人、年2回) パンづくり実習	特になし

図6 農業高校における連携(その2)